

12/29『幼子イエス守られる』(マタイ2:12~23)

長谷川 望牧師

- *クリスマスは終わったが、主イエスの生涯の始まりである。だから教会はクリスマスから始まるといってよい。ルカは、ユダヤの律法に従って8日目(1月1日)に割礼を受け、イエスと名付けられたことを伝えている。一方マタイは、東方から3人の博士がイエスを捜しにやってきて宝物をささげて拝んだことを伝えている。ヘロデ王は、生まれた幼子が「ユダヤの王」だと聞いて「私以外に王があろうはずがない」と、殺してしまおうとたくらんだ。
- *彼らが帰って行くと、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って幼子とその母を連れてエジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。(マタイ2:12~13) エジプトへ逃げなさいというお告げを受けて主イエスの家族は夜のうちにエジプトへ向かった。300~400キロもある道のりを様々な危険の中を歩いて無事エジプトに着き、そこでヘロデ王が死ぬまで滞在した。カイロのコプト教会の一つに家族がいたと言われる住まい(洞窟?)があるが、確かな場所はわからない。どうしてエジプトかという問いには、マタイは預言の成就だという。これは、主が預言者を通して、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と語られたことが成就するためであった。」(2:15)
- *懐疑心が強く、残虐なヘロデ王は過去にも多くの身内や家臣を殺害していた。彼は2歳以下の男の子をすべて殺せ、と命令した。これも旧約聖書エレミヤ書のことば(31:15)が成就したのだという。エジプトからイスラエルに帰れと告げられて帰ることになったが、ユダヤでは息子の一人で父に勝るとも劣らない暴君のアルケラオが統治していると聞いたので、さらに北のガリラヤや地方、それもナザレという小さな町に住んだ。これも「彼はナザレ人と呼ばれる」という預言が成就するためであった。
- *この箇所全体に流れているものは、「夢」と「預言」である。幼子イエスが守られたのは、「夢」によって父ヨセフがお告げを受け、それを確かな神のことばとして受け取り、信じてその通りに行動したこと。そして、神は預言したことはすべて成就することが証明された。救いのために神が地上に人として送られたイエス・キリスト。もし仮にこの方が十字架にかかる前に死んでしまったら、私たちの救いはなかった。神は幼子イエスをどうしても守らなければならなかったのである。